研究部会報告

日本的リソースマネジメント

第12回部会　7月2日(土)14:00～17:00，(財)地方自治情報センター研修室で実施．参加16名．議題：「80年代の企業の内部環境(ヒューマンリソースを中心にした)について」，武田薬品工業(株)湊 晋平氏の所論を中心に「80年代のヒューマンリソースを中心にした企業の内部環境をどう見積ったらよいか」「終身雇用，年功序列はどのように変化すべきか」「その場合の問題点は何か」について研究した．時々若い人に質問する「あなた方は10年先，20年先どうやって生きるつもりですか」．これに答えられれば昭和元禄世直しの手段となるか．

消費者行動モデル

6月例会

テーマ：FACE分析

発表者：古郡延子（協栄計算センター）

内容：状態の比較や分類，性格の比較や分類，時系列的な比較などに用いられたFACE分析の適用例が紹介された．

その中でつぎの2点が示された．

(1) 多次元データを“表情”として総合的に把握する場合の有効性．

(2) “表情”をあらわすパラメータのわりつけ方のむずかしさ．

ダイナミック　オプティミゼーション

7月15日(金)，日科技連において有水 彊(林業試)「多層漏水帯水層の理水パラメータの同定」の発表が行なわれた．有水さんは本研究部会で実際からの問題を提出してくださる貴重な存在である．

内容：不圧地下水収支シミュレーションは多数の要素から構成されているが，とりわけ地下水盆の帯水層係数であるT(透水量係数)とS(貯留係数)の値を地下水盆内の各地で正確に把握する必要が生ずる．従来は現場揚水試験から図解によって求めていたが，これは個人差や時間，経費等に問題があり，新しい方法が望まれていた．本研究会では先に準線形化の手法によりコンピュータによって求める方法を開発したが，今回の発表ではより複雑な地下水問題に対する簡易な接近法を示し，これまでの方法との関連を求めた．部会として実用化をはかる予定である．

組合せ理論の情報科学への応用

テーマ：グラフ論にもとづくシステム構造の同定問題
——ISM，DEMATELの紹介

発表者：谷 明良，村越稔弘（三菱総研）

内容：ISM，DEMATELともシステム要素間の順序関係の構造をつくるのに，人間の直観を総合化することを目的とするコンピュータシステムである．

ISMは，要素の対をひとつずつ人間に見せて，人間がその順序を決定してゆくという過程の中で，推移律を利用するという条件の下で，どのような対を出してゆけば，もっとも少ない質問で構造が決定できるかを問題とする．

DEMATELは，はじめにアンケート調査によって人間からの情報を集め，それをコンピュータの中で解析する方法である．数量化理論などとの関連が問題となろう．

（7月19日，早大システム科学研究所にて．参加者15名）

システム・ダイナミックス

第14回　6月17日(金)．出席12名．「宮城ダイナミック・モデルについて」，豊原昭一(宮城県企画部)．宮城モデルは県の新長期総合計画および国土利用計画策定を支援することを目的に，7月中にシミュレーション分析を終える予定で作業中．報告を受け活発な質疑を行なった．

第15回　7月15日(金)．出席12名．「工業検査における人間行動モデルに対するSDの応用」，野呂影勇（慶応大学）．検査作業を行なう人間の行動モデルにより，生体では行なえない模擬実験をDYNAMOシミュレーションにより行なって，検査する人間の内部状態を浮きぼりにしようとする試み．モデルの特性について質疑を行なった．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．